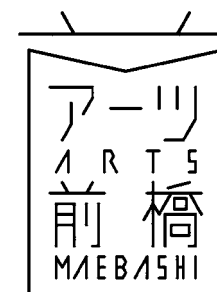


# 故郷を描いた画家 横堀角次郎の画業を振り返る



横堀角次郎《赤城山》1960年 個人蔵

3月17日(土)～5月29日(火)

アーツ前橋で企画展「横堀角次郎と仲間たち 草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで」を開催します。地元で「角さん」と呼ばれ慕われ続けた横堀角次郎。昨年は生誕120年、今年は没後40年の節目の年を迎えます。この機会に画業を振り返り、共に歩んだ仲間たちの作品をご覧ください。

アーツ前橋

☎027・230・1144



横堀角次郎 (1897～1978)

旧勢多郡大胡村(現堀越町)の農家の次男として生まれる。岸田劉生の強い影響を受けながら、「草土社風」といわれる細密描写による写実の風景画や静物画を多く制作した。

## 郷土の画家 横堀角次郎

横堀は、旧勢多郡大胡村(現堀越町)に生まれ、赤城山を眺めながら少年期を過ごしました。その後、旧制前橋中(現県立前橋高)から東京の正則中に転校し、そこで出会った椿貞雄と共に岸田劉生を訪ねたことで本格的に画家としての人生を歩み始めます。

以後、東京に活動の拠点を置きながらも地元との結び付きを大切にしました。作風は時代を先取りするような表現を目指したのではなく、生涯穏健な自然描写に徹したもので、故郷の赤城山などを繰り返し描きました。また、日本画家の磯部草丘らと三西会を結成してグループ展を開催したほか、現在の県展の土台、群馬美術協会の結成にも尽力しました。

今回の企画展「横堀角次郎と仲間たち 草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで」では、地元で愛される横堀角次郎の画業を振り返ります。



岸田劉生《初夏の小路》1917年 下関市立美術館蔵



小杉放庵《母子採果》1926年頃 小杉放庵日光記念美術館蔵

## 仲間たちの作品も展示

石井鶴三、磯部草丘、梅原龍三郎、岸田劉生、北村明道、木村荘八、倉田三郎、倉田白羊、河野通勢、小杉未醒、清水刀根、神保和幸、鳥海青児、椿貞雄、中川一政、中村節也、南城一夫、三岸好太郎、森田恒友、森村西三、山本鼎

100点を越える横堀の作品と、交流のあった21人の作家の作品を合わせて展示。また、関連イベントも開催します。申し込みは同館へ。費用(一般)500円(午後5時以降の入館者・学生・65歳以上・10人以上の団体は300円。4月15日(日)は無料) 休館日 水曜(3月21日(水)は開館し、22日(木)は休館) ●アトリップインアーツ前橋 椅子に座って作品を見ながら昔を思い出し、描かれていないことまでも想像しながら時空を旅します。

日時 3月21日(水)午後2時～3時 対象 75歳以上とその付添人

●ワークショップ「風景を描く」 画家の衣真一郎さんを講師に、1日目は横堀が描いた赤城山を画家と一緒にスケッチ。2日目は描いた作品と展覧会を鑑賞します。

日時 3月24日(土) 25日(日)、午後1時～4時

会場 ①は大胡総合運動公園周辺 ②はアーツ前橋

対象 両日参加できる小5以上、先着20人

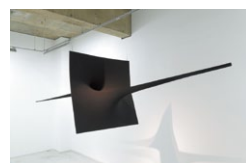
同時開催

## ArtMeets05 菊池敏正／馬場 恵

アーツ前橋 ☎027-230-1144

中堅アーティストを紹介する「ArtMeets05菊池敏正／馬場 恵」を同時開催。

菊池さんは彫刻の保存修復を学ぶことで身に付けた古典技法を用い、動物の骨などの学術標本をモチーフに再現。その形からデジタル処理で変化させた下絵をもとに彫刻を制作します。馬場さんは擬態化するランなどの植物の機能美に魅了され、



菊池敏正《Geometrical Form-012》2014年 檜、漆、顔料 作家蔵



馬場 恵《meta-species Orchidinae》2011年 エッチング、雁皮紙、PET板にコラージュ、アルミ合板 作家蔵

実在する植物から自らの想像力で飛躍させた形を生み出します。ユニークな想像力を楽しんでください。 期日 3月17日(土)～5月29日(火)